

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ニチイキッズ葛飾にいじゅく保育園
施設所在地	新宿6-2-18シティテラスE棟1階
法人名	(株)ニチイ学館

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・5感を育むとともに「嗅覚」「味覚」で感じとる活動を経験する。
- ・異年齢での活動を喜び、様々な発見を共有する喜びを知る。
- ・稲穂の観察から米の成長を学び、食べ物の実りに感謝する健やかな心と、子どもの新たな探求心を育む。

<テーマの設定理由>

身近な食べ物から様々な事を感じ、探求する子どもたち。米のルーツや調理の仕方の工程など様々な過程を想像し準備していく中で実体験での感じる事や発見したことを感性のまま発言や行動を認めていく経験を提供するために設定。

2. 活動スケジュール

- 13:30 食育準備・身支度
- 14:00 米のお話・ガラス鍋で米を炊く、観察・米を炊いている間に稲穂の観察・炊きあがったご飯観察（稲穂観察ルーペ使用）
- 14:25 おにぎり作り」おにぎりをにぎる・味噌を塗る
- 14:00 おにぎりをホットプレートで焼く
- 14:45 食育終了「感じた事や不思議な事等の発表会」
- 15:00 おやつ「味噌おにぎり」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・炊飯器・ガラス鍋・カセットコンロ・しゃもじ・ホットプレート・ tong・ルーペ・バット・ボウル・お椀・スプーン・延長コード・ラップ・クッキングシート・子ども手袋・大人用手袋・米・みりん・砂糖・みりん・サラダ油

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

事前に異年齢でのグループ活動をおこない、お米のルーツを探り様々な想定や仮説を話し合い意見してきた子どもたち。稲穂をルーペで観察し茶色の帽子をまとった米が白い米に変化する様や「匂い」「硬さ」「大きさ」様々な視点からの疑問が生まれ、実体験を通して感じていく様子が見られた。また、ガラス鍋での米の炊きあがり方やぐつぐつと炊き上がる米の流れにも着目し歓声上がる瞬間もあり、子どもたちの目の輝きを感じる。実際に米に触り握り、形作っていく中での発見も様々聞かれた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・【米をルーペ観察】「黄色い部分と白い部分がある」「固いし匂いもしない」「穴が開いてる」【稲穂観察】初めて見る稲穂に興味津々の子どもたち「稲穂って何?」「これがどうしてお米のなるの?」「米はどこに行った?」「色が全然違う」【ガラス鍋で炊飯】炊飯ジャー以外での調理方法に驚く子もいる。炊き立てのご飯の香りを楽しんでいた。「白い煙が出てる(湯気)」「美味しい匂いがする」「米が大きくなった」「泡がぶくぶくしてる」「米がつやつやだね」【おにぎり作り】それぞれの形や量、味噌の塗り方を楽しんでいた。「味噌を包んでみようか?挟んでみようか?」【おにぎり焼き】わずかな音であったが、耳を澄ませ興味深く聞いていた。音や色など焼いている時の変化を探してみようと問いかける。「パチパチしているね」「いい匂い」職員も個々の言葉に寄り添い認めていく。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

米が田んぼに出来る事は事前の図鑑等で知っていても、実物の稲を見たことがない子どもたちにとって良い機会となった。米に黄色い部分(胚芽)に気が付いたことも興味深く観察していることにも感心した。様々な発見や驚きを子どもたちならではの言葉で表現している事も微笑ましく感じる部分でもあった。味噌おにぎり作りの工程でも味噌を塗らない子もいたが、その選択も子どもの自主性や自由な発想の認めから生まれる物なのだと改めて個を尊重する保育の素晴らしさを感じるひと場面であった。また、家庭でのおにぎりは塩やのり、昆布など他にも具材があることを子どもたちの言葉から発信され、「他のおにぎりも作ってみたい」など声があり、「美味しかった」で終わらない発展がある事にも気づき、次に繋がる食育になった活動だったと感じた。